

居場所としての「保健室」

目次

要 約	2
第1章 中学生の生活	6
1. 生徒たちのプロフィール	7
2. 毎日の生活と健康	12
3. 自己評価と生活の満足度	16
4. 保健室を利用する生徒の特徴	22
第2章 保健室の利用とイメージ	26
1. 保健室はどのように利用されているか	26
2. 保健室のイメージと養護教諭のタイプ	32
第3章 中学生の悩み	35
1. 悩み	35
2. 悩みの相談相手	41
3. 悩みと保健室	44
第4章 学校ごとの事例研究	52
1. 各学校の特性	52
2. 保健室の多様性—学校別に保健室をみる—	55
資料1 調査票見本	65
資料2 学年・性別集計表	74

*おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。



調査レポート

居場所としての「保健室」

〔監 修〕 深谷昌志 (静岡大学教授)

〔執筆分担〕

- | | | |
|-----|-------|----------------------|
| 第1章 | 三枝恵子 | (埼玉県立松山高等学校教諭) |
| | 亀沢信一 | (東京都稲城市立稲城第五中学校教諭) |
| 第2章 | 田中統治 | (筑波大学助教授) |
| 第3章 | 三枝恵子 | (埼玉県立松山高等学校教諭) |
| 第4章 | 根舛セツ子 | (東京都稲城市立稲城第五中学校養護教諭) |
| | 深谷野亜 | (上智大学大学院生) |

要 約

① 健康状態

「体育の時間以外に汗をかくほど体を動かすこと」が、1週間に「4回以上」ある生徒が47.7%、「1回以下」とほとんど体を動かしていない生徒も26.3%いる。3年生では、「1回以下」の割合が4割を超える。

「朝起きるのがつらい」と「いつも・わりと」そう思う割合は66.6%。「睡眠時間が足りない」55.3%、「なかなか眠れない」42.3%、そして「食欲がない」と感じている生徒は22.3%。ストレスの高い中学生像が浮かんでくる。(p.12 表1-8、p.15 表1-12)

② 友だち関係

友だちが「11人以上いる」割合は7割を超え、「21人以上」と答えた生徒も5割いる。学年では2年生で減少傾向にあるが、男女を意識したり、グループ化傾向が強まることが原因と考えられる。(p.17 表1-14)

③ 学校生活の変化（小学校と比較して）

中学生になってから「校則が厳しくなった」「友だちと遊びにくくなった」「悩みが増えた」「先生が厳しくなった」と感じている。しかし、「保健室に行きにくくなった」「保健室の先生が厳しくなった」とはあまり思っていない。性別では女子の方が中学校生活に否定的である。（p.19 図1-5、p.20 表1-15）

⑥ 保健室利用のわけ

「ケガや体調不良」が73.8%なのは、保健室の役割がケガや体調の悪いときの応急処置室であることから当然である。しかし、数値は低いものの「授業がいやだったから」「身体のことでの相談」「ちょっとした悩みがあるとき」など、相談相手として養護教諭を求める生徒も5～3%いる。（p.29 図2-8）

④ 保健室を利用する頻度

保健室を「月に2～3回以上」利用する生徒は17.8%で、保健室を学校での「居場所」として使っている「常連」の割合はそれほど多くない。（p.27 図2-1）

⑦ 保健室の利用頻度と利用意向

利用する頻度の高い生徒が「身体のことやちょっとした悩みの相談をしたい」と思っている割合が高く、一部の生徒には保健室が心やすらぐ場所となっている。（p.31 図2-10）

⑤ 保健室によく行く生徒の特徴

保健室を利用するのは、睡眠不足やイライラなど、家庭生活のリズムの乱れやストレスのある生徒、学校を休みがちな生徒に多い。（p.27 図2-2～p.29 図2-7）

⑧ 保健室のイメージ

6割前後の生徒が、保健室を「一人一人を大切にしてくれる」「居心地がいい」場所として受け止めている。しかし、「悩みが相談できる」場所としてのイメージは低く、24.9%にすぎない。（p.32 図2-11）

⑨ 中学生の悩み

中学生になってから悩んだことは「志望校に入れるか」「職業選択」「成績、勉強について」など学業成績や進学についての悩みが上位で、「友だちとうまくいかない」など対人関係の悩みは3割である。性別では、女子の方が友だち関係の悩みや受験への不安が高い。(p.36 表3-1、p.37 図3-1)

⑩ 悩みの相談相手

悩みの相談相手は、勉強や進路に関しては「友だち」「家族」「担任」、対人関係や親子関係に関しては「友だち」か、あるいは「人には相談しない」割合が高い。担任は勉強や進路の相談相手にはなれても、対人関係や親子関係の悩みを持つ生徒の心の支えにはなれない。(p.42 表3-5)

⑪ 養護教諭への信頼

保健室の先生が秘密を「絶対守ってくれる」と答えた生徒は24.3%、「たぶん」を合わせると8割の生徒が先生を信頼している。性別では、女子の方がやや信頼度が高い。保健室を頻繁に訪ねる生徒は養護教諭への信頼度も高い。(p.42 表3-6、p.46 表3-9)

⑫ 中学生にとって「悩み」の意識

「悩みは深刻に考えない方がよい」と「とても・わりと」そう思う割合は7割。「人に相談すると秘密がもれるのではないか」「悩みがあることを人に知られたくない」と思う生徒が5～6割いる。性別では、女子の方が「人に相談すると秘密がもれるのではないか」と思いつつ、誰かに相談したいのか、「悩みがあることを人に知られたくない」と思う割合が低く、複雑な心の内をのぞかせている。(p.47 表3-11、p.48 図3-2)

⑬ 学校別にみる保健室

保健室は、治療の場・睡眠不足の解消または避難所・カウンセリングの場の3つのタイプに大別される。

保健室がどのような機能を果たすかどうかは、学校規模といった外的な条件により規定されるというよりはむしろ、養護教諭のスタンスにより方向づけられる。

カウンセリングの場として機能している学校では、養護教諭は生徒から親近感と秘密を守ってくれるという信頼感を持たれている。また、養護教諭に対しては明るく話しやすい存在として、保健室に対しては、明るく居心地のいい場所だとイメージされている。そして、このタイプの学校の場合、現在利用していない生徒にとっても、保健室はカウンセリングの場としてみなされる割合が高い。

(p.59 表4-6～p.64 表4-11)

〔調査概要〕

対象●東京都の公立中学校1～3年生、1991名と養護教諭5名

時期●1996年7月～9月

方法●学校通しによる質問紙調査と養護教諭へのインタビュー

サンプル構成 (人)

	1年	2年	3年	合計
男子	376	337	314	1,027
女子	314	336	314	964
合計	690	673	628	1,991

第1章 中学生の生活



近年、不登校やいじめの問題が学校教育の中で大きな課題となっている。そして、「教室には行けないけれど、保健室だったら登校できる」「いじめられそうだから、そっと保健室に避難した」など、保健室を体調の悪いときに休む場所や、ケガの応急処置をしてくれる場所であるだけでなく、憩いの場であり安心できる場であると感じている生徒もいる。また、授業に出たくないから、自分の抱えている悩みを誰かに聞いてほしいから、昨夜寝不足だからなどといった理由で保健室を訪ねる者も多い。生徒の中には「養護の先生」にどこか温かく、悩みを聞いてくれそうでなんとなくホッとできそうな、そんなイメージを抱いている者が少なくない。何よりも「養護の先生」は自分たちを試験の結果などの数値で評価しないということが、担任とは異質な安心感をもたらすのだろう。

保健室は、1人の養護教諭が中心になって運営しているのが一般的である。したがって保健室のあり方は、養護教諭の考えを反映し

学校により様々である。体調の悪い者やケガをした者の一時的な応急処置室であるという姿勢を崩さず、それ以外の理由で生徒が保健室を訪ねることを快く思わない養護教諭もいる。また、担任の中にも保健室に行っていると授業に遅れ、勉強に差し支えるということから、生徒が保健室に行くことを望まない教師もいる。養護教諭が、「保健室の役割」として従来の身体の病気やケガの手当てに加え、生徒たちの悩みの相談相手になり、生徒たちの心を認め気持ちを支えるなど「心の問題」のケア的な役割を増やしている中で、担任からは「生徒たちへの甘やかし」「生徒たちから聞いた悩みやトラブルを担当に話さないの生活指導がしにくい」など様々な非難や感情的なズレが出ており、校内でただ1つの出入り自由な空間を持つ養護教諭と担任との人間関係も微妙で複雑である。

しかし、近年、子どもたちの問題行動が複雑化し増加している中で、中学生の抱える複雑で多様な悩みを受け止める「心の居場所」

として保健室の存在が目されている。そこで、「保健室」に焦点を当て、中学生にとっ

ての保健室の存在意義と利用状況の実態、中学生の悩みなどを中心に分析を試みた。

1. 生徒たちのプロフィール DDD

調査は、養護教諭と中学生をマッチングさせて行った。調査対象は東京都の公立中学校6校、1,991名（男子1,027名、女子964名）の中学生と養護教諭である（表1-1）。

対象となった中学生のプロフィールを紹介

しよう。表1-2は部活動の参加状況である。部活動に入部している生徒は94.3%、運動部・文化部で熱心に活動している生徒が64.3%。運動部は男子、文化部は女子の活動している割合が高い。

表1-1 サンプル数

(人)

	男子	女子	合計
1年	376	314	690
2年	337	336	673
3年	314	314	628
合計	1,027	964	1,991

表1-2 部活動の参加

(%)

		運動部 熱心	運動部 不熱心	文化部 熱心	文化部 不熱心	入部していない
全体		53.6	22.4	10.7	7.6	5.7
性別	男子	60.7	22.9	5.6	4.5	6.3
	女子	45.9	21.8	16.1	11.0	5.2

図1-1は通塾率である。塾に「通っていない」生徒が46.7%、「週に2、3回」が40.5%。3年生では通塾率が69.6%と増加し、部活動と塾に多忙な中学生像がうかがえる。表1-3は、友だちの人数である。友だちが「いない」「1人いる」を合わせても1.0%、

5割を超える生徒が20人を超える友だちがいると答えている。

中学生が希望する進路は、表1-4によれば、大学進学希望32.4%、専門学校・短大希望22.0%と、中学生全体の約5割が高校卒業後さらに進学したいと希望している。

図1-1 通塾（1週間に通っている日数）

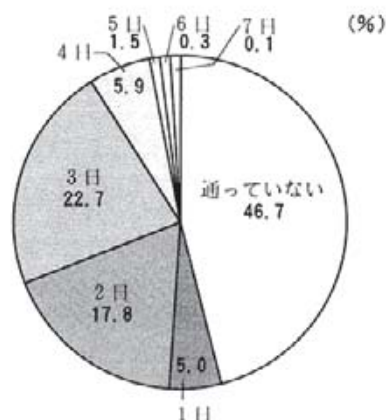


表1-3 友だちの人数 × 性

		いない	1人	2~3人	4~5人	6~10人	11~20人	それ以上
全体		0.8	0.2	2.8	8.6	16.5	19.3	51.8
性別	男子	1.5	0.2	2.4	8.4	15.7	18.5	53.3
	女子	0.1	0.2	3.3	8.8	17.5	20.0	50.1

表1-4 進路 × 性

		中学卒業後就職	高校まで	専門学校短大	やさしい4年制大学	難しい4年制大学	考えていない
全体		1.4	24.8	22.0	18.6	13.8	19.4
性別	男子	2.1	28.6	12.1	20.6	15.9	20.7
	女子	0.6	20.9	32.6	16.4	11.5	18.0

次に、中学生の生活の様子をみてみよう。
表1-5は就寝時間を示した。「12時頃」就寝する生徒が29.5%、「午前1時以降」も12.6%いる。男女差はみられないが、学年別では3年生になると、「午前1時以降」に就寝する生徒が2割を超える。深夜まで受験勉強に

追われているのだろうか。

図1-2・3、表1-6は家族の様子である。母親の就労は「パートタイム」36.6%、「フルタイム」17.1%、「自営業」10.1%と6割を超える母親が何らかの職業を持っている(図1-2)。夕食の様子をみると、図1-3

表1-5 就寝時間 × 性

		(%)					
		10時前	10時頃	11時頃	12時頃	1時頃	それ以降
全 体		3.6	13.9	40.4	29.5	8.6	4.0
性 別	男 子	4.6	16.8	39.6	26.5	8.1	4.4
	女 子	2.6	10.8	41.3	32.7	9.1	3.5

図1-2 母親の就労

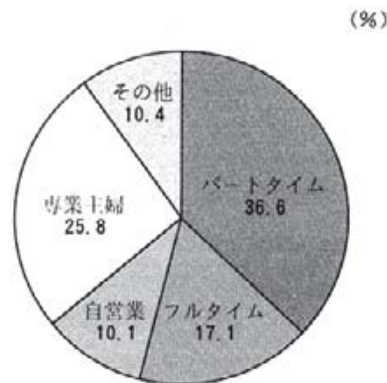
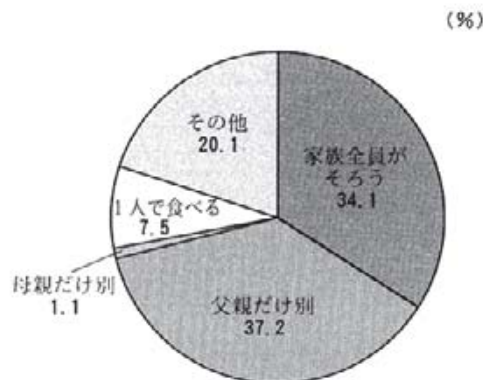


図1-3 夕食は誰と食べるか



によれば、「家族全員がそろろう」34.1%、「父親だけ別」37.2%と7割以上が誰かと一緒に食事している様子がわかる。「1人で食べる」7.5%、「その他」と答えた者が2割に達し、塾で食べるのだろうか、祖父母やきょうだいと一緒になのか気になる結果である。きょうだいの人数をみると、「2人」52.5%、「3人」32.1%と、きょうだい2、3人が8割を超えている（表1-6）。

このような生活を送っている中学生の自己評価を表1-7に示した。中学生の自己像は「友だちが多い」「話題が豊富」「楽道家」とする割合が5割を超える。しかし、「勉強が得意」「先生から信頼されている」「リーダーシップがある」「センスがいい」「人から相談を持ちかけられる」などの項目では自分に自信が持てないと思う割合も高い。

表1-6 きょうだいの人数 × 性

(%)

		一人っ子	2人きょうだい		3人きょうだい			その他
			上	下	上	中	下	
全体		7.5	26.6	25.9	11.6	10.7	9.8	7.9
			52.5		32.1			
性別	男子	8.9	27.4	24.7	11.3	10.7	9.3	7.7
	女子	5.9	25.5	27.3	12.0	10.7	10.3	8.3

表1-7 自己像

(%)

	とてもそう	わりとそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 友だちが多い	18.8	51.7	25.9	3.6
	70.5			
2. 話題が豊富だ	12.8	39.3	40.9	7.0
	52.1			
3. 楽人家である	18.1	32.2	38.0	11.7
	50.3			
4. スポーツが得意だ	15.9	29.8	34.6	19.7
	45.7			
5. 根性がある	12.0	30.8	45.7	11.5
	42.8			
6. 今の自分が好きだ	14.2	27.6	38.8	19.4
	41.8			
7. やれば何でもできる	9.7	28.4	46.8	15.1
	38.1			
8. 人から相談を持ちかけられる	6.6	30.5	44.6	18.3
	37.1			
9. センスがいい	8.1	19.2	55.4	17.3
	27.3			
10. リーダーシップがある	4.1	17.8	51.4	26.7
	21.9			
11. 先生から信頼されている	3.5	17.6	55.8	23.1
	21.1			
12. 勉強が得意だ	4.6	16.4	46.1	32.9
	21.0			
*13. 悩みを人に相談できない	9.4	24.2	46.5	19.9
	33.6			
*14. 体が弱い	2.7	12.9	40.6	43.8
	15.6			

*はネガティブな項目

2. 毎日の生活と健康 DDD

保健室について調べるとき、まず考えなければならないのが、生徒たちの健康面であろう。そこで、ここでは中学生の生活と健康についてみてみよう。

まず、表1-8は今の中学生がどのくらい運動しているかを表している。「体育の時間以外に汗をかくほど体を動かすことは週に何回くらいあるか」という質問に、全体の約半

分(47.7%)の生徒が「週4回以上」と答えている。それに対して、約4分の1(26.3%)の生徒は「週1回以下」しか運動していない。学年別にみると、学年が上がるにつれ運動する回数が減り、3年では「週1回以下」の割合(42.5%)が「週4回以上」の割合(29.5%)を上回っている。本調査は7月～9月に行われたので、3年生はすでに部活

表1-8 体育以外の運動の回数(部活動を含む) × 学年・性

(%)

		ほとんどない	週に1回	週に2～3回	週に4～5回	それ以上
全 体		15.1	11.2	26.0	27.2	20.5
		26.3			47.7	
学 年	1 年	8.5	8.3	24.3	33.3	25.6
		16.8			58.9	
	2 年	12.4	8.5	26.0	29.7	23.4
		20.9			53.1	
	3 年	25.4	17.1	28.0	17.7	11.8
		42.5			29.5	
性 別	男 子	9.8	8.8	23.5	30.4	27.5
		18.6			57.9	
	女 子	20.9	13.7	28.7	23.7	13.0
		34.6			36.7	

△▽は差が著しいもの

動を引退して運動する機会が減ったことが影響していると思われる。また、男子よりも女子の方が運動の回数が少ないことがわかる。

次に、表1-9をみると、学習塾に通っている生徒は全体の53.3%で、その割合は学年が上がるにつれ増えている。3年では、69.6%が学習塾に通っていて、「週3日以上」通っている割合は50.0%とかなり多い。これは1・2年の2倍以上で、3年生が学校から帰ってからも、とても忙しい生活を送っている様子がわかる。

そのような忙しい生活の中で、平日の夕食は誰と食べているのだろうか。表1-10をみ

ると、「父親だけ別」に食べる生徒が37.2%もいて、「家族全員がそろろう」割合は約3分の1（34.1%）にすぎないことがわかる。そして、「1人で食べる」生徒が学年が上がるにつれて増えていることも考えると、ちょうど中学生くらいの父親は働き盛りで忙しいことが関係してくるのだろう。性別では、「父親だけ別」に食べると答えているのは男子より女子の方が多い。

本来、夕食はお互いにその日にあったことなどを話すことができる団らんの時間であろうが、中学生の家庭ではなかなか家族がそろわないのが現状のようである。

表1-9 学習塾に通っている日数 × 学年

	合 計	週に1日	週に2日	週に3日	週に4日以上
全 体	53.3	5.0	17.8	22.7	7.8
				30.5	
1 年	40.7	4.4	15.9	17.7	2.7
	△			20.4	
2 年	52.7	7.5	21.7	19.8	3.7
	△			23.5	
3 年	69.6	3.2	16.4	31.8	18.2
				50.0	

△は差が著しいもの

表1-10 平日の夕食は誰と食べているか × 学年・性

	全体	1年	2年	3年	男子	女子
父親だけ別	37.2	42.5	34.7	33.8	33.3	41.2
家族全員がそろろう	34.1	32.2	37.0	33.2	36.2	31.9
1人で食べる	7.5	4.4	7.2	11.2	9.0	5.9
母親だけ別	1.1	1.5	1.4	0.5	1.5	0.7
その他	20.1	19.4	19.7	21.3	20.0	20.3

さらに、表1-11で就寝時間についてみると、全体の8割以上(82.5%)の生徒が「11時以降」に寝ている。「12時以降」に寝ている生徒は全体の42.1%、1年22.4%、2年40.0%、3年65.8%と学年が上がるにつれて急増している。また、男子より女子の方が遅くまで起きている生徒が多い。これだけ遅くまで起きていると、中学生にとって体の発育や次の日のいろいろな活動のためによい影響を与えないのは明らかである。学業の始業時間にしっかりと脳が働くためには、夜10時～

11時には寝て、約8時間の睡眠をとり、始業2時間前の朝の6時30分には起床するのが理想である。しかし、現実にはそういう生徒はあまりいない。

以上のように、運動する機会がそれほど多くもなく、塾などの影響で忙しい毎日を送っている中学生は、自分の健康面についてどう考えているのだろうか。

表1-12によると、「朝起きるのがつらい」と「いつも・わりと」思っている生徒が全体の66.6%、「睡眠時間が足りない」は55.3

表1-11 平日の就寝時間 × 学年・性

(96)

		10時前	10時頃	11時頃	12時頃	1時頃	それ以降	
全 体		3.6	13.9	40.4	29.5	8.6	4.0	
							42.1	
学 年	1 年	5.8	21.5	50.3	16.3	3.9	2.2	
								22.4
	2 年	3.7	14.3	42.0	29.6	7.6	2.8	
							40.0	
3 年	1.1	5.1	28.0	43.9	14.7	7.2		
								65.8
性 別	男 子	4.6	16.8	39.6	26.5	8.1	4.4	
								39.0
女 子	2.6	10.8	41.3	32.7	9.1	3.5		
								45.3

%と、かなりの割合を占めている。これらは就寝時間が遅い生徒が多いことから当然の結果であろう。そして、「なかなか眠れないことがある」と答えた生徒が42.3%もいるのには驚かされる。同時に、本来食べ盛りである中学生の5人に1人(22.3%)が「食欲がない」と思っているのも気になる結果である。学年別にみると、ほとんどの項目で学年が上がるにつれ「いつも・わりと」そう思う割合が増えている。その中でも1年生より3年生の割合が特に高くなっているのは、

- ①肩がこる +13.6%
- ②睡眠時間が足りない +10.7%
- ③物事に集中できない +10.3%
- ④朝起きるのがつらい +9.6%

で、いずれも毎日の忙しい生活の中で、高学年ほどストレスを感じている様子がわかる。男女を比べてみると、全体に男子より女子の方がストレスを感じているようである。中でも「肩がこる」「毎日忙しすぎる」「睡眠時間が足りない」と思っている割合は女子の方が多い。

表1-12 健康状態 × 学年・性

(%)

	全体	1年	2年	3年	男子	女子
1. 朝起きるのがつらい	66.6	62.0 <	66.9 <	71.6	65.3	68.1
2. 睡眠時間が足りない	55.3	52.2	51.4 <<	62.9	52.1 <	58.7
3. なかなか眠れないことがある	42.3	39.0	41.6 <	46.6	41.1	43.7
4. 物事に集中できない	39.1	34.2 <	39.0 <	44.5	39.8	38.3
5. 毎日忙しすぎる	38.9	36.7	38.9	41.5	35.8 <	42.4
6. 肩がこる	32.5	27.3	29.8 <<	40.9	27.5 <<	37.9
7. イライラしている	30.2	27.2	29.9	33.8	29.9	30.5
8. 食欲がない	22.3	19.8	24.8	22.4	22.6	22.1
9. 朝起きると、おなかがすいている	38.1	38.7	38.7	36.6	39.2	36.9

「いつも」+「わりと」その割合
 <<は差が著しいもの

3. 自己評価と生活の満足度 DDD

生徒たちは自分がどんな人間だと思っているのであろうか。そして、今の生活をどのよう
に感じているのであろうか。

表1-13をみると、自分は「友だちが多い」「話題が豊富だ」「楽道家である」と「と
ても・わりと」そう思っている生徒が多いの
に対して、「リーダーシップがある」「先生か
ら信頼されている」「勉強が得意だ」という
ことにはあまり自信がないようである。

学年別にみると、学年が上がるにつれ、ほ
とんどの項目で自信をなくしていく様子がか
がえる。1年生と3年生の差をとって大き
い順に並べると、以下ようになる。

①今の自分が好き	-13.4%
②友だちが多い	-10.4%
③スポーツが得意	-9.8%
④話題が豊富	-8.7%
⑤やれば何でもできる	-5.6%
⑥勉強が得意	-4.5%

これらは、実際には2年～3年よりも1年
～2年の方が差が大きい。つまり、1年から
2年にかけて、体だけでなく心理的にも大き
な変化があるということになる。

逆に、学年が上がるにつれ増える項目とし
て、「先生から信頼されている」があげられる。
これは生徒と先生のお互いの人間関係が少し

ずつ密接になっているからであろう。

一方、性別では男子が女子よりも「スポー
ツが得意(+13.2%)」「やれば何でもできる
(+9.8%)」「勉強が得意(+8.7%)」をあげ
た割合が多いのに対し、女子は「人から相談
を持ちかけられる(+29.6%)」「楽道家であ
る(+10.6%)」「話題が豊富だ(+7.4%)」
「センスがいい(+7.3%)」と思う生徒の割
合が多い。そして、「悩みを人に相談できな
い」「体が弱い」と感じている生徒は男子に
多い。

さて、表1-13では、「友だちが多い」と
「とても・わりと」そう思っている生徒が70.5
%もいるが、実際にはどうなのであろうか。

友だちの人数についてまとめたものが、表
1-14である。友だちが「11人以上」いると
答えた生徒は全体の7割、「21人以上」いる
と思っている生徒は約半数とかなり多い。し
かし、その割合は1年から2年にかけて減る
傾向にある。1年の頃は、小学校の延長でま
わりの多くの友だちと楽しくつき合えるので
あろうが、思春期になると男女を意識したり
グループ化の傾向が強くなる。特に、2年生
の頃は友だち探しの時期で、まわりを気にし
ながら生活している生徒が多く見受けられる。

表1-13 自己像 × 学年・性

(%)

	全体	1年	2年	3年	男子	女子
1. 友だちが多い	70.5	76.7 >	68.0	66.3	71.0	69.8
2. 話題が豊富だ	52.1	57.1 >	50.4	48.4	48.5 <	55.9
3. 楽天主である	50.3	50.7	48.7	51.3	45.1 ≪	55.7
4. スポーツが得意だ	45.7	52.6 ≧	41.4	42.8	52.1 ≧	38.9
5. 根性がある	42.8	45.3 >	39.9	43.1	42.1	43.5
6. 今の自分が好きだ	41.8	50.4 ≧	37.5	37.0	43.9	39.5
7. やれば何でもできる	38.1	42.1 >	35.4	36.5	42.8 ≧	33.0
8. 人から相談を持ちかけられる	37.1	36.6	33.2 <	41.6	22.8 ≪	52.4
9. センスがいい	27.3	28.9	25.3	27.4	23.7 <	31.0
10. リーダーシップがある	21.9	23.4	19.4	22.8	19.9	23.8
11. 先生から信頼されている	21.1	18.6	19.0	25.8	19.9	22.3
12. 勉強が得意だ	21.0	23.2	20.9	18.7	25.2 >	16.5
* 13. 悩みを人に相談できない	33.6	32.2	32.5	36.0	38.0 ≧	28.8
* 14. 体が弱い	15.6	14.8	15.1	17.1	19.6 >	11.4

「とても」+「わりと」その割合
 *はネガティブな項目
 ≧≦は差が著しいもの

表1-14 友だちは何人くらいいるか × 学年

(%)

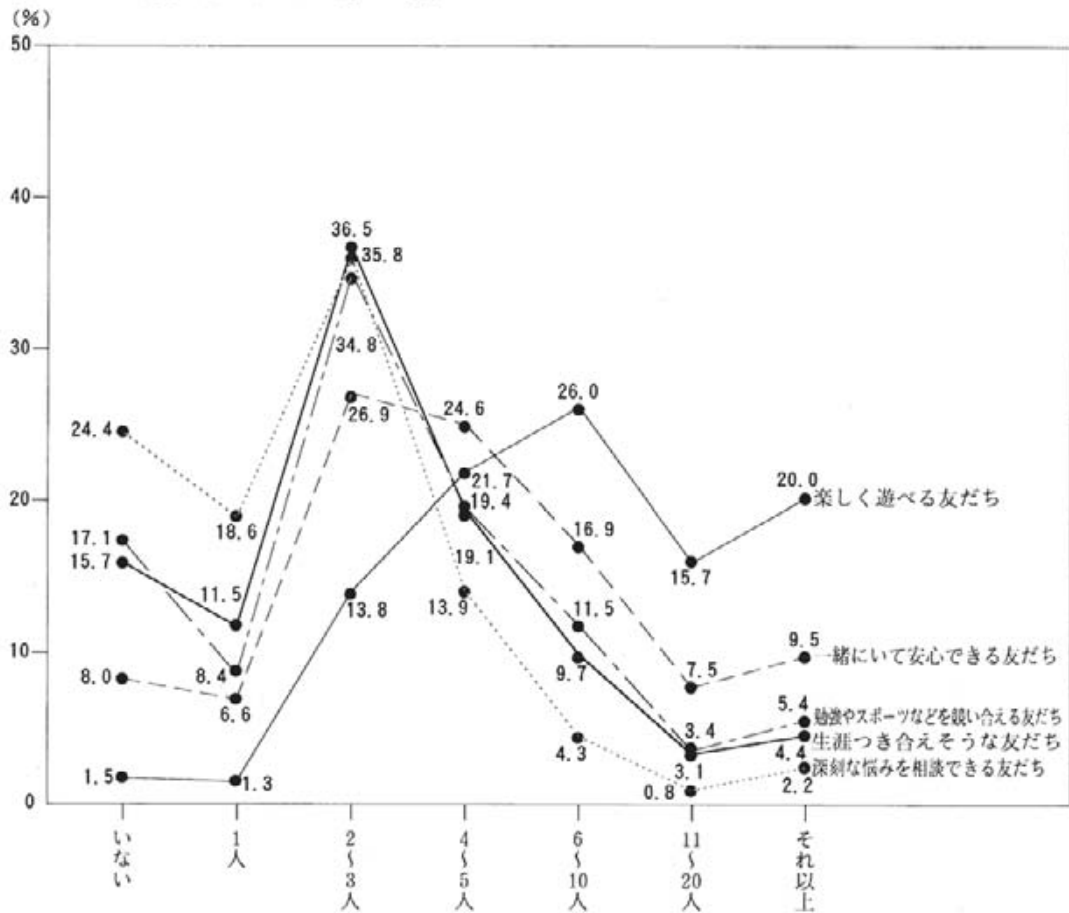
	いない	1~5人	6~10人	11~20人	それ以上
全体	0.8	11.6	16.5	19.3	51.8
1年	0.7	7.9	12.4	17.2	61.8
2年	1.2	11.6	19.9	20.7	46.6
3年	0.5	15.9	17.5	20.1	46.0

図1-4で友だちのタイプ別人数をみると、「楽しく遊べる友だち」は6～10人、その他の友だちは大体2～3人と答えている生徒が多い。「深刻な悩みを相談できる友だち」がいない生徒は24.4%、「勉強やスポーツなどを競い合える友だち」がいない生徒が17.1%。

「生涯つき合えそうな友だち」がいない生徒も15.7%いることを考えると、友だちの人数は多くても、“本当の友だち”は少ないと思われる。

さて、学校生活について生徒たちはどう感じているのであろうか。小学校と比較して、

図1-4 友だちのタイプ別の人数



どう変わってきたかをまとめたのが図1-5である。まず、「校則が厳しくなった」「友だちと遊びにくくなった」「悩みが増えた」「先生が厳しくなった」については、そうなったと思う割合がそうならないと思う割合を上回っている。それに対して、「先生と話しに

くなくなった」「保健室に行きにくくなった」「保健室の先生が厳しくなった」「友だちができにくくなった」とはあまり思っていない。保健室に対しては比較的よいイメージを持っているようである。

図1-5 小学校時代に比べて、学校生活について変わったこと

(96)

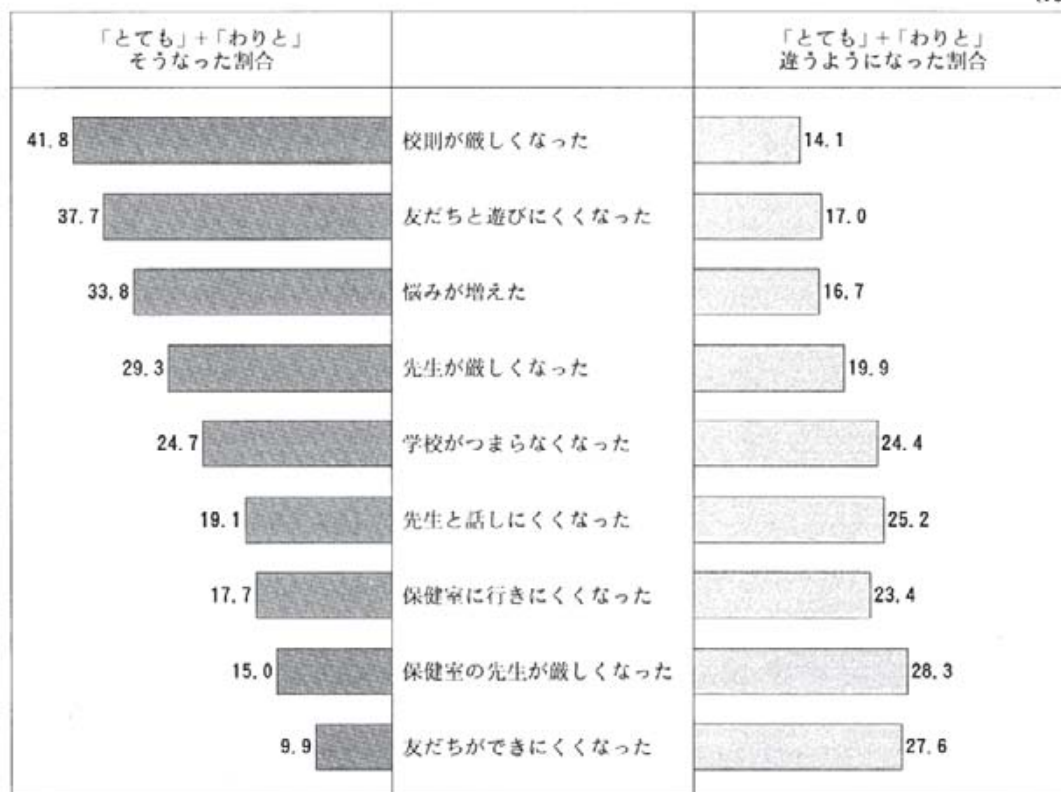


表1-15をみると、学年・性別によってずいぶん変わる。「校則が厳しくなった」と思う生徒は1年に多く、学年が上がるにつれ減ってくるのに対して、「悩みが増えた」と思っている生徒は学年が上がるにつれ増えている。そして、「先生が厳しくなった」「学校がつまらなくなった」「保健室に行きにくく

なった」「保健室の先生が厳しくなった」については、2年生が一番そうなったと思う割合が多い。自己評価でもそうであったが、やはり2年生がキーポイントになりそうである。

男女別にみると、すべての項目で男子より女子の方が「とても・わりと」そうなったと思う割合が高い。つまり、女子の方が中学生活に

表1-15 小学校時代に比べて、学校生活について変わったこと × 学年・性

(%)

	全体	1年	2年	3年	男子	女子
1. 校則が厳しくなった	41.8	49.4	38.6	36.9	37.0	46.9
2. 友だちと遊びにくくなった	37.7	36.8	37.1	39.4	37.2	38.3
3. 悩みが増えた	33.8	25.1	34.5	42.6	25.8	42.3
4. 先生が厳しくなった	29.3	27.5	32.3	28.0	26.8	31.8
5. 学校がつまらなくなった	24.7	16.1	30.8	27.7	23.8	25.6
6. 先生と話しにくくなった	19.1	19.1	18.8	19.5	16.3	22.1
7. 保健室に行きにくくなった	17.7	18.8	19.2	14.9	16.7	18.8
8. 保健室の先生が厳しくなった	15.0	13.3	17.5	14.3	13.4	16.8
9. 友だちができにくくなった	9.9	8.2	10.4	11.4	8.3	11.6

「とても」+「わりと」そうなった割合
○は最大値
><は差が著しいもの

ついて否定的である。特に「校則が厳しくなった」『悩みが増えた』と思っている女子が多い。

毎日の楽しさ（図1-6）については、「とても・わりと楽しい」と思う生徒が「あまり・ぜんぜん楽しくない」と思う生徒を大きく上回っているが、学年が上がるにつれ「楽しくない」と思う生徒が増えている。3

年生では3人に1人がそう思っている。

また、図1-7をみると、「学校に行きたくないと思う」とよく思う生徒が27.0%、「ときどき」を合わせると60.0%もの生徒がそう思ったことがあり、これも学年が上がるにつれ増えていく。学校に行くといろいろなプレッシャーがあり、悩むことも多いのであろうか。

図1-6 毎日が楽しいか × 学年

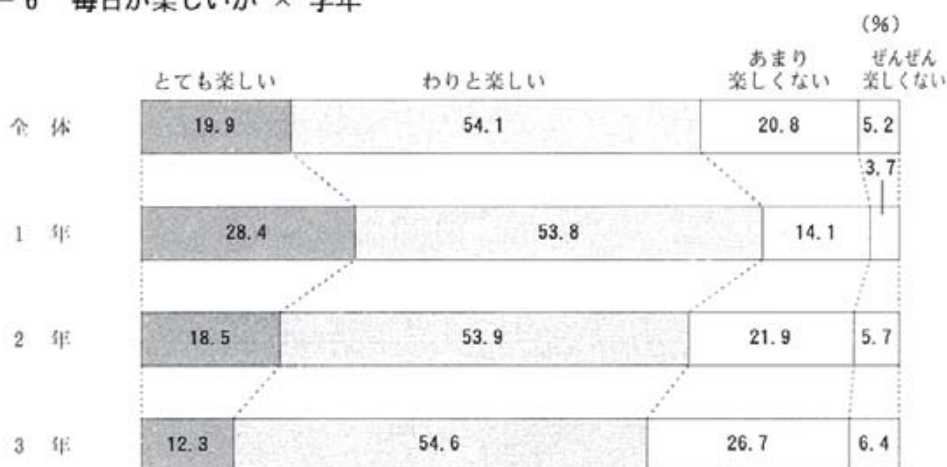


図1-7 学校に行きたくないと思うことがあるか × 学年



4. 保健室を利用する生徒の特徴 DDD

これまで、中学生の生活や健康、自分のタイプなどをみてきたが、保健室を利用する生徒にはどのような特徴があるのだろうか。保健室を「週1回以上利用する」生徒と「利用しない」生徒について、それぞれ比べてみたのが表1-16～18と図1-8・9である。

まず、表1-16をみると、保健室をよく利

用する生徒は、利用しない生徒に比べて健康面で不安を抱えていて、自分で自分の体をコントロールできていないことがわかる。その中でも、「イライラしている」「食欲がない」「睡眠時間が足りない」と思っている生徒の割合が多いのは、すべて睡眠不足と関係がありそうである。いつも睡眠が十分とれていな

表1-16 保健室の利用 × 健康状態

(%)

	① 週1回以上 利用する生徒	② 利用しない生徒	差①-②
1. 朝起きるのがつらい	69.6	66.2	3.4
2. 睡眠時間が足りない	64.3	54.9	9.4
3. 毎日忙しすぎる	47.8	39.4	8.4
4. なかなか眠れないことがある	46.1	39.2	6.9
5. 物事に集中できない	45.2	36.4	8.8
6. イライラしている	42.6	28.7	13.9
7. 肩がこる	35.7	30.7	5.0
8. 食欲がない	32.2	20.0	12.2
9. 朝起きると、おなかがすいている	34.8	38.7	- 3.9

「いつも」「わりと」その割合
○は10%以上差があるもの

くて、ストレスが解消されないまま次の日になっている。そして、登校してもまだ脳が働いていない状態で、保健室に「寝かせてほしい」と来る生徒も出てくるのであろう。

次に、自己像との関連をみると(表1-17)、保健室をよく利用する生徒の方が「人から相談を持ちかけられる」「リーダーシップがある」タイプの生徒が多い。一般に保健室に行く生徒は“弱い”というイメージがあるが、最近では、リーダーシップがあり、友だちから信頼されている生徒も、いろいろな問題を自分で抱えてしまっていてどうしようもなくなり、

保健室を利用することもあるという。また、「話題が豊富」という生徒の割合が多いが、友だちづき合いの中で、まわりの子に合わせているうちにだんだん疲れてきて、ストレスを感じてしまうのだろう。さらに、保健室をよく利用する生徒は「悩みを人に相談できない」と思う割合が少ないところを見ると、保健室が“悩みなどを相談する場”として利用されている実態もあるということであろう。

表1-17 保健室の利用 × 自己像

(%)

	㉑ 週1回以上 利用する生徒	㉒ 利用しない生徒	差㉑-㉒
1. 友だちが多い	64.9	70.1	- 5.2
2. 話題が豊富だ	57.1	50.1	7.0
3. 楽道家である	55.8	50.5	5.3
4. スポーツが得意だ	50.4	44.6	5.8
5. 人から相談を持ちかけられる	46.5	34.8	11.7
6. 根性がある	41.2	43.2	- 2.0
7. 今の自分が好きだ	41.2	42.7	- 1.5
8. やれば何でもできる	37.2	38.2	- 1.0
9. センスがいい	33.3	26.9	6.4
10. リーダーシップがある	32.5	21.4	11.1
11. 先生から信頼されている	23.4	21.6	1.8
12. 勉強が得意だ	20.2	21.9	- 1.7
* 13. 悩みを人に相談できない	27.2	36.0	- 8.8
* 14. 体が弱い	14.2	14.0	0.2

「とても」+「わりと」その割合

*はネガティブな項目

○は10%以上差があるもの

表1-18で、学校生活について小学校時代に比べて変わったことをみると、保健室をよく利用する生徒は「学校がつまらなくなった」「先生が厳しくなった」「先生と話しにくくなった」と思っている生徒が多い。逆に、「保健室の先生が厳しくなった」と思う生徒が少ないところをみると、学校生活や先生への不満などを保健室の先生に話しに行くケー

スも多いようである。

図1-8は毎日の楽しさとの関係を表している。それによると、保健室をよく利用する生徒の方が「あまり・ぜんぜん楽しくない」と思う割合が多い。しかし、逆に毎日が「とても楽しい」と思っている生徒も多いところをみると、保健室が健康面のチェックや悩みの相談場所以外に、社交の場になっているの

表1-18 保健室の利用 × 小学校時代に比べて学校生活について変わったこと

(%)

	㉑ 週1回以上 利用する生徒	㉒ 利用しない生徒	差㉑-㉒
1. 悩みが増えた	46.5	31.6	14.9
2. 校則が厳しくなった	42.5	42.7	-0.2
3. 友だちと遊びにくくなった	39.8	37.4	2.4
4. 先生が厳しくなった	39.8	25.9	13.9
5. 学校がつまらなくなった	37.7	22.7	15.0
6. 先生と話しにくくなった	28.6	18.1	10.5
7. 友だちができにくくなった	15.0	8.8	6.2
8. 保健室に行きにくくなった	13.3	21.1	-7.8
9. 保健室の先生が厳しくなった	6.3	17.3	-11.0

「とても」+「わりと」そうなった割合
○は10%以上差があるもの

だろう。保健室に身長や体重を計りに行ったり、保健室の先生とおしゃべりを楽しんだりしているのはよく目にする光景である。

しかし、学校生活に不満やストレスを感じている生徒がよく保健室を利用しているのは、図1-9をみれば明らかである。学校に行きたくない「よく・ときどき思う」割合が保健室を利用しない生徒は55.0%なのに対して、

よく利用する生徒は71.0%もいる。

以上のように、生徒が保健室をよく利用する理由には、単にケガをしたとか具合が悪いといったことだけではなく、様々な理由が考えられる。これは、保健室が、体と心をケアする総合的な保健センターのような役割を果たしているということであろう。

図1-8 保健室の利用 × 毎日が楽しいか

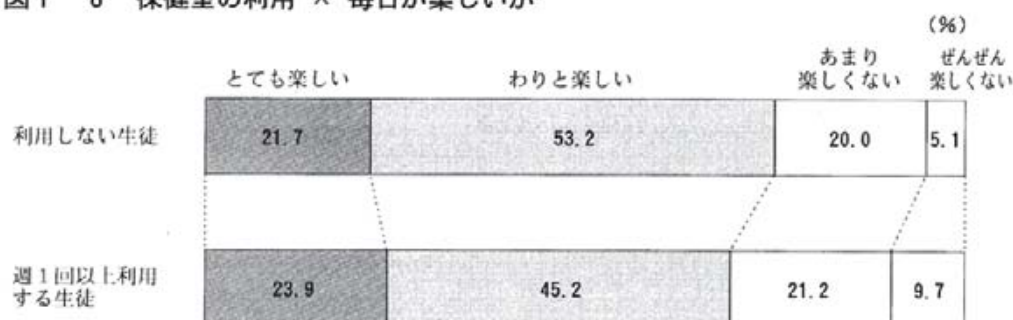


図1-9 保健室の利用 × 学校に行きたくないと思うことがあるか



第2章 保健室の利用とイメージ



ここでは、中学生が保健室をどのように利用しているか、その利用頻度を中心とした分析の結果と、生徒たちの目に映る保健室のイ

メージと養護教諭のタイプをみていくことにする。

1. 保健室はどう利用されているか DDD

まず、保健室を利用する頻度を尋ねたところ、図2-1にみるように、「月に2~3回以上」利用する生徒は全体の17.8%にとどまった。保健室を学校での「居場所」として使っている「常連」の割合はそれほど多くはない。では、どんな生徒たちが保健室によく出入りするのだろうか。この2割弱を占める生徒たちの性別と学年別の内訳を調べてみた。すると巻末の集計表に示す通り、女子の割合が少し高く、また、2・3年生で高くなっている。これはおそらく、女子の方が生理などで体調を崩すことが多いためだろうし、また

学校に慣れた2・3年生の方が保健室を利用しやすいためであろう。

さらに、保健室をよく利用する生徒がどんな特徴を持つかをみるため、保健室の利用頻度と、他の項目との関連を調べてみた。図2-2~6は、保健室の利用頻度と、生徒の健康状態との関連を示している。やはり保健室によく出入りする生徒は、睡眠不足やイライラで、体調が万全というわけではない。つまり、家庭での生活リズムの乱れやストレスのある生徒の場合に、保健室を利用する頻度が高い。

図 2 - 1 保健室の利用頻度

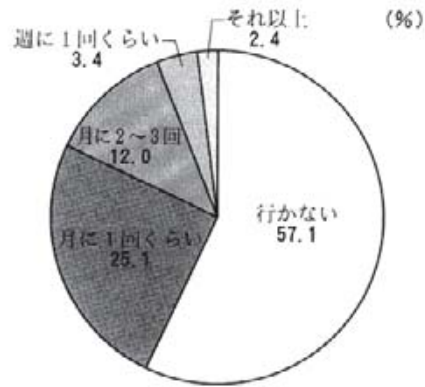


図 2 - 2 保健室の利用頻度 × 食欲がない

(%)

利用頻度	いつも		あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
	そう	わりとそう		
月1回以下	4.8	16.4	44.1	34.7
月2~3回以上	6.9	21.1	46.6	25.4

図 2 - 3 保健室の利用頻度 × イライラしている

(%)

利用頻度	いつも		あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
	そう	わりとそう		
月1回以下	6.7	21.6	42.0	29.7
月2~3回以上	11.7	27.7	36.3	24.3

図2-4 保健室の利用頻度 × 物事に集中できない

(%)

	いつも そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
月1回以下	9.0	28.6	46.4	16.0
月2～3回以上	14.8	30.8	39.9	14.5

図2-5 保健室の利用頻度 × 睡眠時間が足りない

(%)

	いつも そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
月1回以下	19.5	35.4	31.5	13.6
月2～3回以上	28.7	29.5	29.9	11.9

図2-6 保健室の利用頻度 × なかなか眠れないことがある

(%)

	いつも そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
月1回以下	9.2	32.0	36.7	22.1
月2～3回以上	15.4	33.6	36.2	14.8

また、近年、注目されている生徒の「不登校」傾向との関連を調べてみた。図2-7にみるように、学校を休みがちな生徒ほど、保健室の利用度が高い。その理由は、もともと体の弱い子がそうなるのか、それとも、学校嫌いの子がそうしているのか、はっきりしない。けれども、後述するように、保健室が「不登校」傾向を示す生徒たちにとって、一定の「居場所」になっていることは確かである。

次に、どのような理由で保健室を利用したか、その内容を複数回答で尋ねた結果が、図2-8である。「ケガや体調不良」によるものが73.8%に達する。保健室本来の役割はこ

のためにあるわけだから、これは当然の結果である。ただし少数ではあるが、この他に「身体のことでの相談」(5.3%)、「睡眠不足」(4.3%)、「授業がいやだった」(4.2%)、「ちょっとした悩みがあるとき」(3.0%)などの内容があがっている。眠たいから保健室を利用するというのは今どきの中学生らしいが、これ以外の理由に、相談相手として養護教諭を選ぶ生徒が5~3%程度いることは注目されてよい。というのも、生徒が体調のことをきっかけに気軽に相談しているところに、養護教諭による相談活動の特徴が認められるからである。

図2-7 保健室の利用頻度 × 「不登校」傾向

	よく思うし 実際に学校を 休んだことがある	よく思うが 学校には 行っている	ときどき思う	ほとんど思わない	まったく 思わない
月1回以下	3.4	20.9	32.9	28.0	14.8
月2~3回以上	9.7	29.8	33.7	15.6	11.2

図2-8 保健室の利用理由

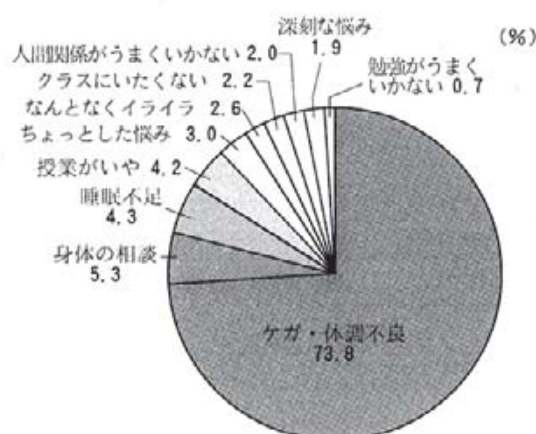
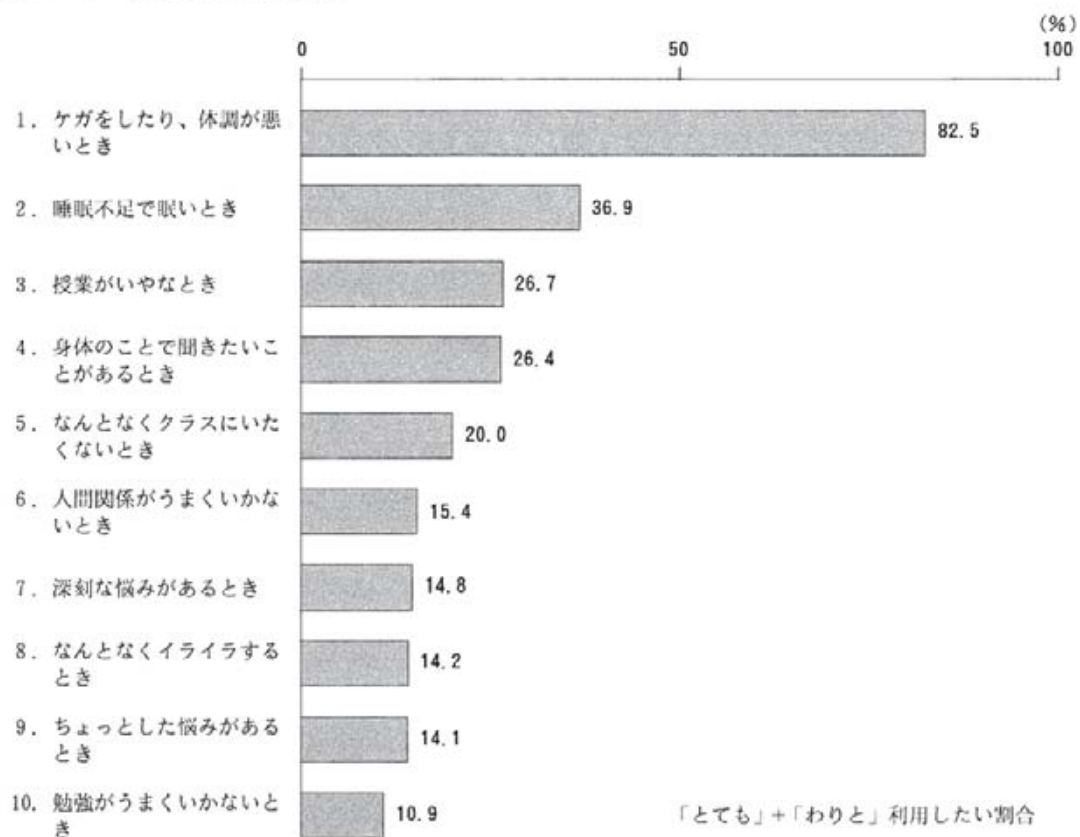


図2-9は、生徒がどのようなとき保健室を利用したいと思っているか、その単純集計の結果である。ここでも、養護教諭に相談したいと思う割合は15～14%どまりである。生

徒の多くは、学校での休養や気休めのために保健室を利用したいと思っていることがわかる。

では、こうした保健室の利用意向が利用す

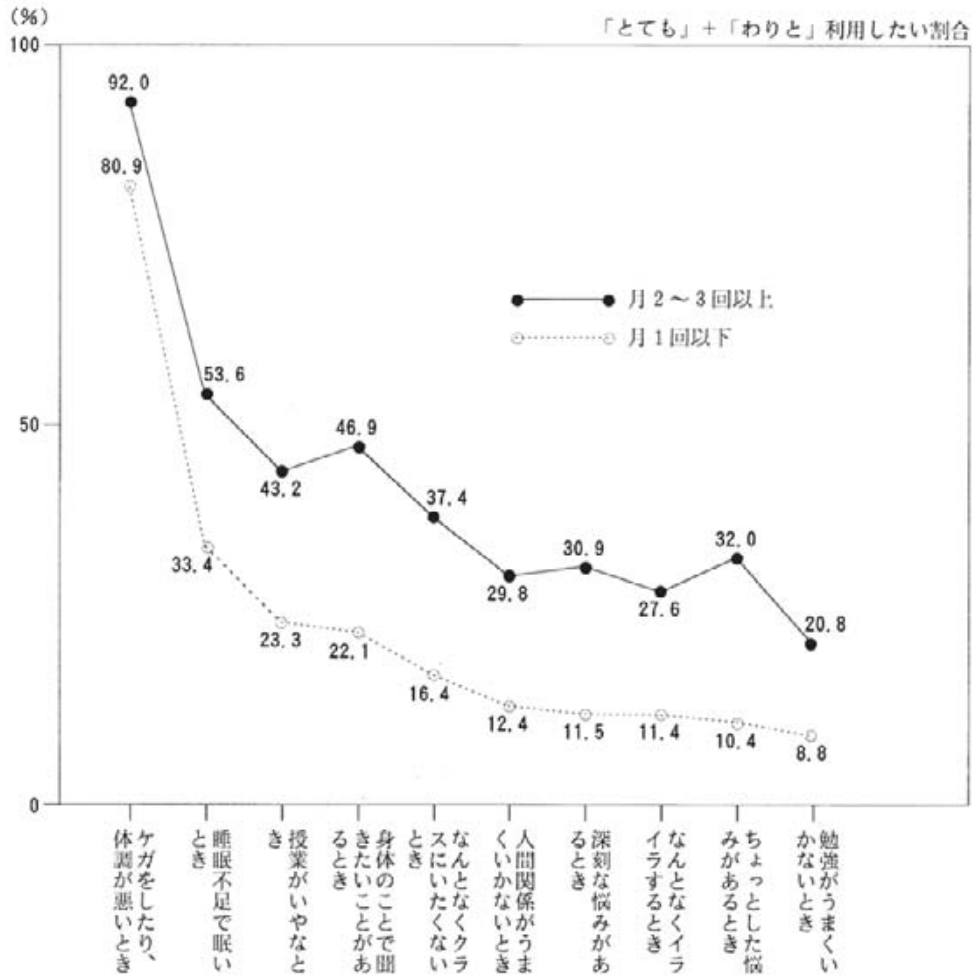
図2-9 保健室の利用意向



る頻度と関係するのだろうか。先に述べたように、月に2～3回以上、保健室を利用しているグループと、それ以下のグループとを分けて、クロス集計してみた。図2-10によれば、

保健室を頻繁に利用している生徒ほど、身体のことやちょっとした悩みのことで相談したいと思っている。一部の生徒にとって、保健室は心が安らぐ場所なのである。

図2-10 保健室の利用頻度 × 利用意向



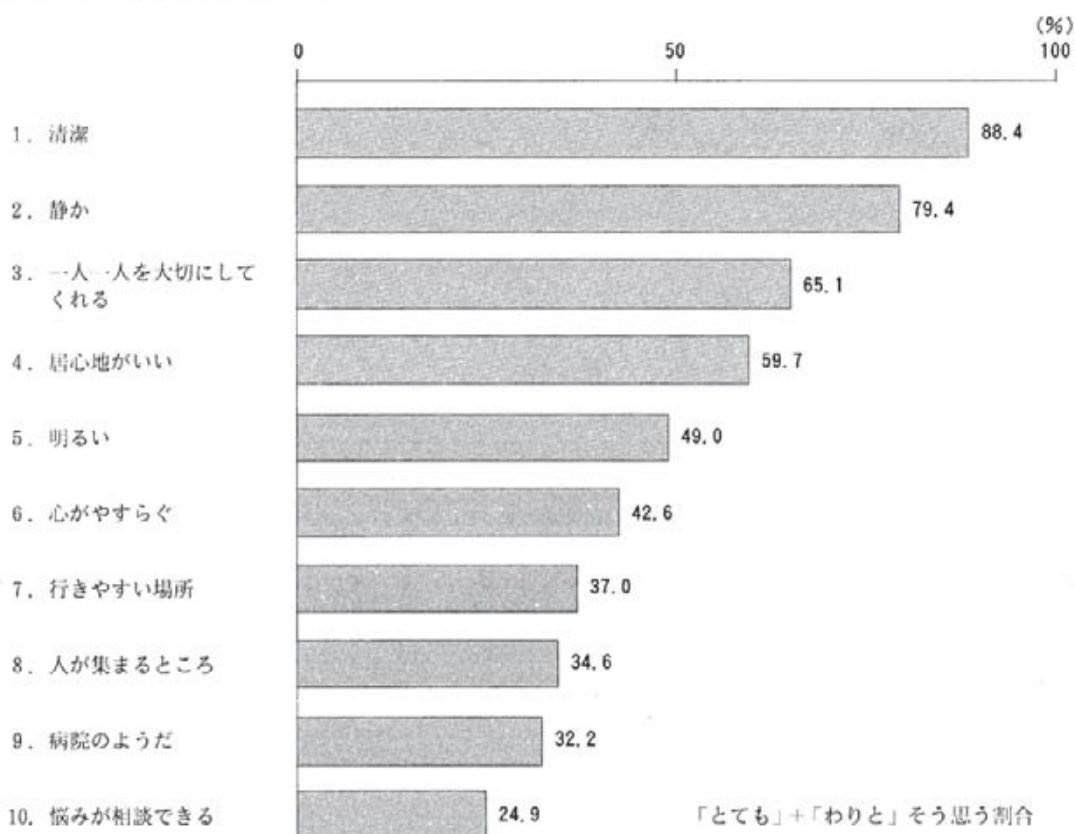
2. 保健室のイメージと養護教諭のタイプ DDD

保健室の雰囲気は養護教諭の人柄や熱意によって学校ごとにずいぶん違う。小学校の場合と比べて、生徒の目に映る養護教諭は少し厳しくなるかもしれない。保健室の経営が、学校経営の方針、特に生徒指導の方針と関連するからである。そのケーススタディの結果は第4章で分析するが、前節でみたように、

保健室によく出入りする生徒の中には、身体のことを相談する過程で、心の悩みも打ち明ける場合がある。この点で、生徒からみた保健室のイメージや養護教諭のタイプは、相談しやすさと関係するだろう。

図2-11は、保健室のイメージを割合の高い順に示している。6割前後の生徒にとって

図2-11 保健室のイメージ

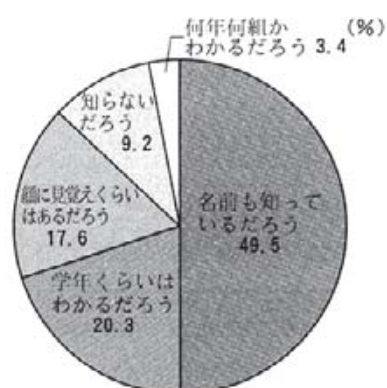


保健室が「一人一人を大切にしてくれる」「居心地がいい」場所として受け止められていることがわかる。ただし、「悩みが相談できる」というイメージは24.9%と最も低くなっている。近年、いじめや不登校の問題を解決するうえで、養護教諭による相談活動に期待が集まっているが、約4分の3の生徒は保健室を相談の場所とはみていない。生徒にとっては、正面きった相談よりも、体調の不調をきっかけにする方が、保健室に入って行きやすいと考えられる。

次に、養護教諭がその生徒の名前や学年を

どのくらい知っていると思うか、その度合い（認知度）を尋ねてみた。図2-12に示す通り、約半数に及ぶ多数の生徒が「名前も知っているだろう」と回答し、「知らないだろう」と思う者は1割弱にとどまった。この結果は学校の規模にもよるだろうが、養護教諭が一人一人を大切にしようとして生徒に接している努力の表れである。生徒にとっては自分の名前を覚えてもらうことが、養護教諭との距離感を縮める第一歩であり、名前で声をかけられることは大きな励みになるだろう。

図2-12 保健室の先生による認知度



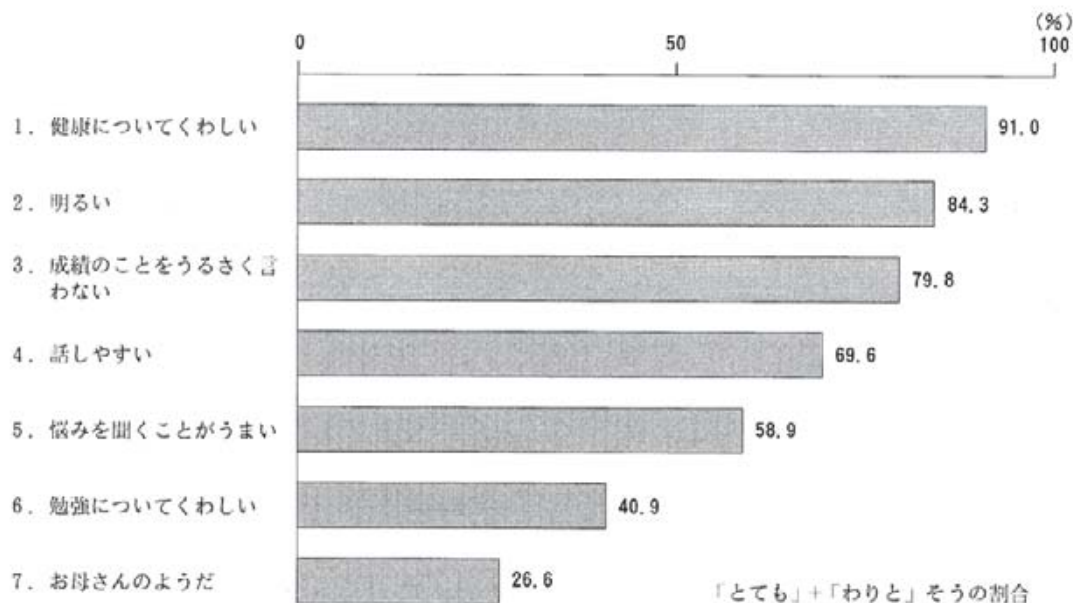
次に、その学校の養護教諭のタイプを尋ねた結果が、図2-13である。中学生の年代になると、母親のイメージは薄れるようであるが、生徒の多くが「明るい」(84.3%)、しかも「話しやすい」(69.6%)感じの先生と受けとっている。また、「成績のことをうるさく言わない」(79.8%)ことが高い比率に達していることも注目される。これまでも指摘されてきたことではあるが、学校の中で生徒を点数で評価しない先生、成績のみでみない先生という点に、養護教諭の独自性がある。

図2-13では、「悩みを聞くことがうまい」が約6割に達している。カウンセリングの専門的な訓練を受けていない養護教諭が多いにもかかわらず、生徒の見方では比較的高

い評価がなされている。養護教諭はキャリアを積むにつれて、生徒との雑談という形で相談に応じる技能を経験的に身につけているのかもしれない。つまり、スクールカウンセラーとは違う意味で、こうした日常的な相談活動が一定の役割を果たしていると推察される。

今回の調査では、その相談の内容まで踏み込んで調べていないので、明確なことはわからない。しかし、保健室によく出入りしている生徒の場合、その悩みは多岐にわたっていて、たとえば、家庭内の雰囲気や親子関係にまで及んでいることが明らかとなった。

図2-13 保健室の先生のタイプ



第3章 中学生の悩み



近年、中学生の悩みもいろいろ複雑である。そこで、中学生がどのような悩みを抱き、どのように対処をしているのか、さらに、中学

生の悩みに保健室がどのくらい頼りにされているのかを探っていきたい。

1. 悩み DDD

表3-1は中学生の悩みを学業成績、進路、友だち・教師関係などの具体的な項目について、中学生になってから悩んだことがあるか尋ねた結果である。「とても・少し悩んだ」と悩んだ経験のある数値に注目すると、「志望校に入れるか不安だ」が60.2%と最も多く、次いで「勉強しても成績が上がらない」「自分に向いている職業がわからない」「勉強の仕方がわからない」が5割から4割と、生徒たちは成績や受験など学業成績に関連した悩みを多く抱えている。人間関係の悩みでは、「友だちとうまくいかない」が「とても」7%、「少し」を合わせるとほぼ3割の生徒が

悩んだ体験を持っている。「クラスの雰囲気になじめない」「先生とうまくいかない」「友だちができない」などクラスの人間関係で悩んでいる生徒も1割を超えている。家族関係では「親が自分の気持ちをわかってくれない」「進路について親と意見が合わない」の割合がほぼ2割を占める。

図3-1は、悩みの体験を性別で示した。男女で差が顕著な項目をみると、女子に「友だちとうまくいかない」「クラスの雰囲気になじめない」「友だちができない」「志望校に入れるか不安だ」「勉強の仕方がわからない」「授業内容がわからない」など、友だち関係

や高校受験に不安を抱いている割合が高い。学年別特徴をみると、1年では授業や勉強について、3年では高校入試や職業選択につい

て、友だちや先生との人間関係に悩んでいる様子がうかがえる（巻末の集計表参照）。

表3-1 中学生になって悩んだこと

	(%)			
	とても悩んだ	少し悩んだ	あまり悩んだことはない	ぜんぜん悩んだことがない
1. 志望校に入れるか不安だ	28.5	31.7	21.2	18.6
2. 自分に向いている職業がわからない	17.4	27.8	28.1	26.7
3. 勉強しても成績が上がらない	14.1	33.9	34.3	17.7
4. 勉強の仕方がわからない	12.2	30.2	27.8	29.8
5. 親が自分の気持ちをわかってくれない	11.1	15.8	35.0	38.1
6. 授業内容がわからない	7.9	26.1	31.6	34.4
7. 友だちとうまくいかない	7.0	21.8	31.3	39.9
8. 家の中の雰囲気がよくない	6.3	9.7	28.7	55.3
9. 進路について親と意見が合わない	5.8	10.9	35.9	47.4
10. クラスの雰囲気になじめない	4.2	12.7	29.7	53.4
11. 友だちにいじめられる	3.3	8.6	25.4	62.7
12. 先生とうまくいかない	3.1	8.3	33.2	55.4
13. 友だちができない	2.8	10.5	30.6	56.1

図3-1 中学生になって悩んだこと × 性

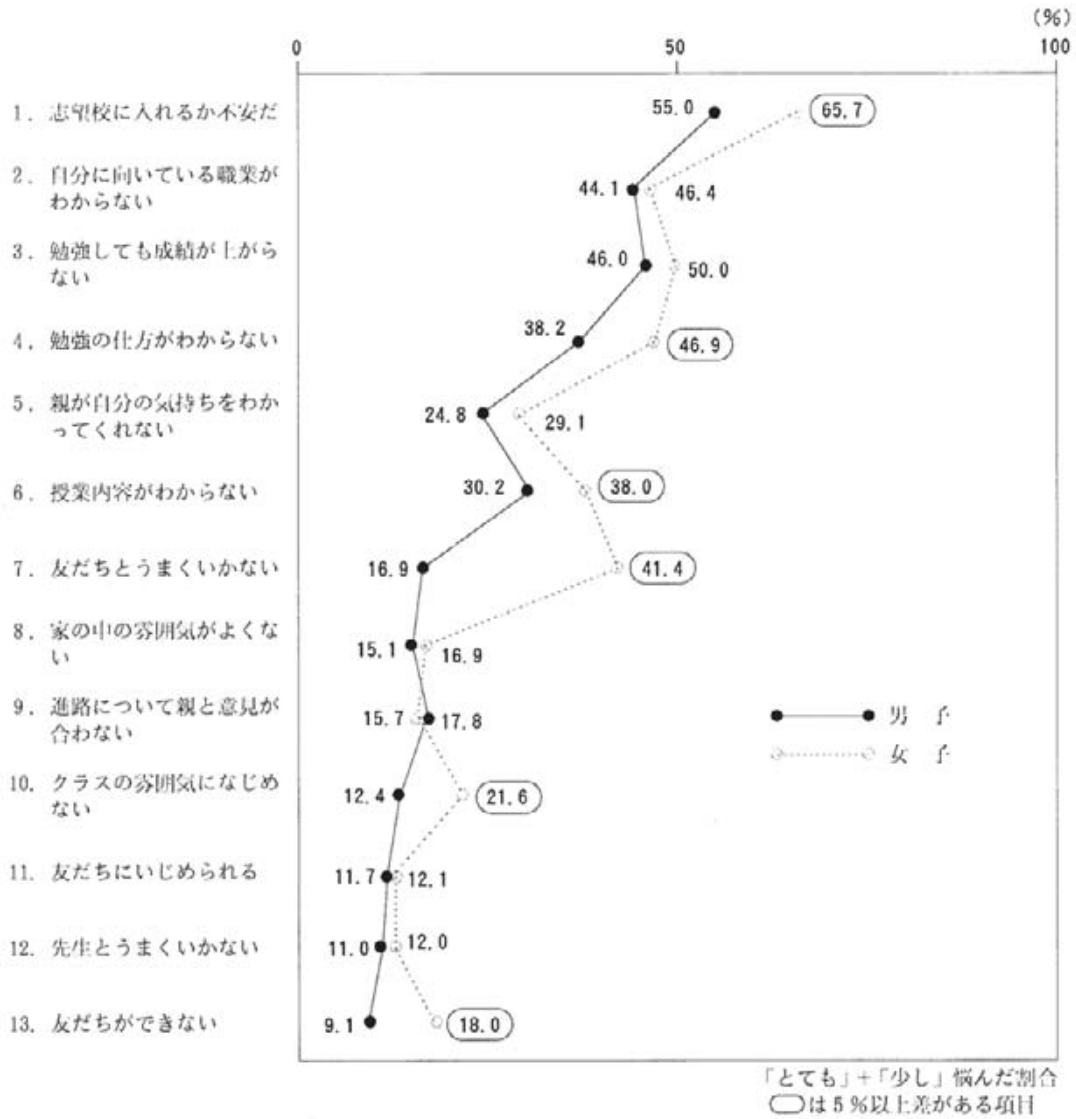


表3-2は部活動との関係である。部活動に入っていない生徒や文化部に入っているが熱心に活動していない生徒に悩みを持つ割合が高い。逆に、運動部や文化部に熱心に活動している生徒には、勉強への不安があるものの、家族や友だち関係での悩みが低いことが

わかる。表は省略したが、進路別にみると高校卒業後就職を希望している生徒は勉強への悩み、専門学校や短大希望者は職業選択の悩み、4年制大学希望者の中でも特に難関大学希望者に「友だちができない」「友だちにいじめられる」「先生とうまくいかない」「進路

表3-2 中学生になって悩んだこと × 部活動の参加

(%)

	運動部 熱心	運動部 不熱心	文化部 熱心	文化部 不熱心	入って いない
1. 志望校に入れるか不安だ	59.7	58.7	64.0	62.2	62.5
2. 自分に向いている職業がわからない	43.4	47.1	<u>42.7</u>	48.0	54.9
3. 勉強しても成績が上がらない	56.2	49.7	<u>47.1</u>	49.3	54.4
4. 勉強の仕方がわからない	39.1	48.7	<u>35.9</u>	45.0	48.3
5. 親が自分の気持ちをわかってくれない	<u>25.1</u>	27.1	29.3	25.8	36.9
6. 授業内容がわからない	<u>30.7</u>	39.5	31.2	38.9	40.5
7. 友だちとうまくいかない	<u>25.2</u>	30.3	33.8	35.1	34.8
8. 家の中の雰囲気がよくない	<u>13.5</u>	18.2	14.0	18.8	25.0
9. 進路について親と意見が合わない	14.8	17.9	16.8	<u>14.4</u>	28.6
10. クラスの雰囲気になじめない	<u>12.8</u>	16.8	21.2	29.0	26.1
11. 友だちにいじめられる	12.4	<u>11.6</u>	15.6	14.9	17.0
12. 先生とうまくいかない	<u>9.4</u>	12.3	11.2	16.9	16.1
13. 友だちができない	<u>9.5</u>	13.2	18.3	26.2	21.6

「とても」+「少し」悩んだ割合
○は最大値 ~~~~は最小値（5%以上差がある項目）

について親と意見が合わない」など、人間関係の悩みを持っている割合が高い。

さらに数値で追ってみよう。表3-3・4は家族の様子との関係でみたものである。表3-3によれば、母親が「フルタイム」で仕事を持っている生徒は「志望校に入れるか不

安」を抱く割合は低い、「親が自分の気持ちをわかってくれない」「家の中の雰囲気がよくない」や「友だちとうまくいかない」など、友だちや親子の人間関係での悩みの割合が高いことが目を引く。

表3-3 中学生になって悩んだこと × 母親の就労

(%)

	パートタイム	フルタイム	自営業	専業主婦
1. 志望校に入れるか不安だ	60.1	<u>57.1</u>	65.0	61.2
2. 自分に向いている職業がわからない	46.9	43.2	45.0	43.9
3. 勉強しても成績が上がらない	48.8	44.3	49.0	46.2
4. 勉強の仕方がわからない	43.1	45.2	40.8	<u>40.0</u>
5. 親が自分の気持ちをわかってくれない	26.8	29.1	24.2	26.8
6. 授業内容がわからない	36.2	36.4	<u>31.1</u>	31.2
7. 友だちとうまくいかない	28.5	33.4	29.6	<u>27.5</u>
8. 家の中の雰囲気がよくない	15.9	20.9	15.9	<u>11.4</u>
9. 進路について親と意見が合わない	16.3	17.6	16.7	18.1
10. クラスの雰囲気になじめない	15.6	19.5	17.9	16.9
11. 友だちにいじめられる	12.6	12.0	14.9	11.4
12. 先生とうまくいかない	10.8	12.9	11.7	11.9
13. 友だちができない	12.1	16.3	12.7	11.5

「とても」+「少し」悩んだ割合
 ○は最大値 ～は最小値（5%以上差がある項目）

「夕食の風景」からこの悩みの実態をみると（表3-4）、「1人で食べる」生徒や少数だが「母親だけ別」に食べている生徒が勉強や人間関係で悩んでいる様子がわかる。

母親と子どもとの接触のなさが特に友人・親子の人間関係に影響を与えており、中学生にとっての母親の存在の大きさが推測できる。

表3-4 中学生になって悩んだこと × 夕食を誰と食べるか

(%)

	家族全員が そろろう	父親だけ別	母親だけ別	1人で食べる
1. 志望校に入れるか不安だ	59.8	60.4	61.9	60.8
2. 自分に向いている職業がわからない	<u>42.7</u>	45.6	76.2	44.2
3. 勉強しても成績が上がらない	47.5	<u>45.6</u>	54.5	54.1
4. 勉強の仕方がわからない	41.6	<u>40.5</u>	50.0	47.3
5. 親が自分の気持ちをおかなくてくれない	<u>23.8</u>	27.9	<u>23.8</u>	34.0
6. 授業内容がわからない	34.7	29.8	<u>27.3</u>	43.2
7. 友だちとうまくいかない	<u>26.6</u>	26.7	36.3	35.1
8. 家の中の雰囲気がよくない	<u>12.6</u>	15.1	22.7	29.1
9. 進路について親と意見が合わない	15.7	18.1	<u>9.6</u>	19.7
10. クラスの雰囲気になじめない	16.0	<u>15.6</u>	22.7	23.0
11. 友だちにいじめられる	12.8	<u>10.8</u>	13.6	17.0
12. 先生とうまくいかない	11.2	9.4	<u>9.1</u>	21.7
13. 友だちができない	<u>11.9</u>	14.0	18.1	18.9

「とても」+「少し」悩んだ割合
○は最大値 は最小値（5%以上差がある項目）

2. 悩みの相談相手 DDD

では、中学生は悩みをどのように解決し、対処しているのだろうか。表3-5は悩みの相談相手を探ねたものである。悩みの相談相手を3位まであげると、以下ようになる。

	1位	2位	3位
勉強に関する悩み	友だち	家族	担任
進路に関する悩み	家族	担任	友だち
対人関係に関する悩み	友だち	人には相談しない	家族
親子関係に関する悩み	人には相談しない	友だち	家族

中学生の悩みの相談相手は「友だち」「家族」「担任」、あるいは、「人には相談しない」という。担任は勉強に関してさえ3番目の相談相手であり、対人関係や親子関係など心の問題の支えにはなっていないのが現状である。性別・学年別でも同様の傾向であるが、特に、女子の「対人関係や親子関係の悩み」の相談相手としては「家族」を頼りにする割合が高い。

では、養護教諭に対してはどうだろうか。表3-5によれば、養護教諭に相談する割合は決して多くないが、対人関係や親子関係に関する悩みについて、担任、部活動顧問と比較すると、次のようになる。

	担任	部活動顧問	養護教諭
対人関係の悩み	3.0%	0.6%	2.9%
親子関係の悩み	4.2	0.5	3.7

養護教諭の占める割合は担任とほぼ同じ割合で、部活動顧問に比べ非常に高い数値を示している。

校内では、養護教諭は1人がほとんどであり、養護教諭の態度や保健室経営、相談相手としての信頼度の高さなど、個々の養護教諭

によって大きな違いがみられる。くわしいケースの分析は第4章で述べるので、ここでは養護教諭への信頼感を中学生がどの程度持っているのかをみてみよう。

表3-6によれば、養護教諭が秘密を「絶対守ってくれる」と答えた生徒は24.3%、「たぶん守ってくれる」54.9%を合わせると、8割の生徒が養護教諭に信頼を寄せている。性別では女子の方が若干信頼度が高い。しかし、養護教諭が専門的応急処置や生徒の健康管理、校内の衛生管理などをほとんど全部1人で行う現状では、生徒一人一人の悩みを聞き、生徒の心を認め支える余裕がない場合も見受けられる。

近年、校内にカウンセラーを積極的に導入する傾向がみられる背景には、生徒たちの抱える悩みが複雑化し、担任の対応だけでは生徒の心を支えることが不十分であるという現状もある。生徒たちが抱える不登校、いじめ、対人関係などの悩みに、より専門的な知識を持ったカウンセラーが必要であろうとの配慮である。では、中学生はカウンセラーについてどう考えているのだろうか。

表3-7は、生徒たちに「悩みを聞いてくれる人(カウンセラー)がいたらいいと思うか」と尋ねた結果である。「とてもそう思う」割合は13.1%であるが、「わりとそう思う」を合わせると4割の生徒が悩みを聞いてくれる人を欲している。性別では女子にその傾向が強い。先の図3-1よりわかるように、女子の悩みが学業成績や高校受験の悩みと共に友だちや親子などの対人関係の悩みが多く、いわゆる「心理的な側面を伴う悩み」を抱えていること、また、相談相手をより家族に求めていることから、「誰かに聞いてほしい」という欲求が強いのだろう。学年差はほとんどみられない。

表は省略したが、進路別では、専門学校・短大希望者と難関4年制大学希望者にカウンセラーのニーズが高い。専門学校・短大希望者は女子の占める割合が高く、女子はカウンセラーを求めている割合も高い(表3-7)。一方、難関4年制大学希望者は「親と意見が

合わない、クラスの雰囲気になじめない、友だちにいじめられる、友だちや先生とうまくいかない」など心理的要素の強い悩みを抱えており、カウンセラー欲求も高いと推測できる。

表3-5 悩みの相談相手(誰に相談したいか)

(%)

	担任の先生	部活動の先生	保健室の先生	その他の先生	友だち	家族	その他	人には相談しない
1. 勉強に関する悩み	19.8	0.7	0.5	7.0	33.2	22.8	3.8	12.2
2. 進路に関する悩み	22.1	1.6	0.6	3.9	13.9	42.9	4.0	11.0
3. 対人関係に関する悩み	3.0	0.6	2.9	0.6	47.7	13.7	4.7	26.8
4. 親子関係に関する悩み	4.2	0.5	3.7	1.1	27.4	9.9	5.9	47.3

○は最大値

表3-6 保健室の先生は秘密を守ってくれるか

(%)

	全体	男子	女子
1. 絶対秘密を守ってくれるだろう	24.3	23.1	25.7
2. たぶん秘密を守ってくれるだろう	54.9	53.8	55.9
3. たぶん秘密は守られないだろう	12.6	12.5	12.7
4. 秘密は守られないだろう	8.2	10.6	5.7

表3-7 悩みを聞いてくれる人がいればいいと思うか × 性・学年
(カウンセラー)

(%)

		とても そう思う	わりと そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
全 体		13.1	27.0	39.1	20.8
性 別	男 子	11.4	23.7	37.3	27.6
	女 子	14.8	30.5	41.1	13.6
学 年	1 年	14.0	25.8	37.7	22.5
	2 年	13.4	25.0	40.5	21.1
	3 年	11.9	30.3	39.2	18.6

3. 悩みと保健室 DDD

今回の調査対象となった中学生の8割が養護教諭を信頼している(表3-6)。さらに4割の生徒がカウンセラーがいれば相談したいと答えている(表3-7)。しかし、現状では、カウンセラーがいる学校はまだわずかである。校内では、保健室が応急処置室と共に、保健室(養護教諭)が生徒たちのよき相談者、理解者となっていることが多い。

表3-8は、悩みと保健室の利用頻度のクロス集計を示した。保健室に「週1回かそれ以上行っている」生徒は、「志望校に入れるか不安」「職業選択」「親が自分の気持ちをわかってくれない」「授業内容がわからない」

「友だちとうまくいかない」「家の中の雰囲気がよくない」「進路について親と意見が合わない」「友だちにいじめられる」「先生とうまくいかない」など、学業成績から将来の職業選択、親や友だち・先生との人間関係まで様々な悩みを抱えている割合が高い。特に「行かない」生徒と比較すると、家庭や家族の悩み、あるいは友だち・先生との対人関係の悩みを抱えている割合が高く、その差が顕著である。悩みを抱えた中学生が保健室を頻繁に訪ねるのは、やはり保健室の先生への信頼の高さであろうか。

表3-8 中学生になって悩んだこと × 保健室の利用頻度

(%)

	行かない	月1回 くらい	月2～3回	週1回・ それ以上
1. 志望校に入れるか不安だ	57.3	63.0	65.8	65.8
2. 自分に向いている職業がわからない	43.2	46.8	49.1	51.3
3. 勉強しても成績が上がらない	44.1	54.7	51.5	50.4
4. 勉強の仕方がわからない	38.6	48.8	48.1	41.2
5. 親が自分の気持ちをわかってくれない	23.1	30.3	29.9	43.5
6. 授業内容がわからない	29.8	39.3	39.4	42.6
7. 友だちとうまくいかない	26.7	30.9	32.3	35.7
8. 家の中の雰囲気がよくない	13.5	16.9	21.1	28.1
9. 進路について親と意見が合わない	13.4	19.8	20.9	26.3
10. クラスの雰囲気になじめない	16.5	17.1	17.3	20.9
11. 友だちにいじめられる	10.2	11.9	14.6	22.6
12. 先生とうまくいかない	10.1	12.8	10.8	20.0
13. 友だちができない	13.0	15.0	13.0	11.3

「とても」+「少し」悩んだ割合
○は最大値

表3-9によれば、「絶対秘密を守ってくれるだろう」と答えた割合を保健室の利用状況でみると、「行かない」生徒は21.3%であるのに対し、「週1回かそれ以上行く」生徒は47.0%と保健室の先生に高い信頼を抱いて

いる。そして、表3-10によれば、保健室によく行く生徒はカウンセラーを求めている。

では、複雑・多様化した悩みを持つ中学生は「悩み」をどのように考えているのだろうか。そこで、表3-11では、中学生にとって

表3-9 保健室の先生は秘密を守ってくれるか × 保健室の利用頻度

(%)

	絶対秘密を守ってくれるだろう	たぶん秘密を守ってくれるだろう	たぶん秘密は守られないだろう	秘密は守られないだろう
1. 行かない	21.3	56.2	14.2	8.3
	77.5			
2. 月1回くらい	22.1	58.0	11.4	8.5
	80.1			
3. 月2～3回	32.3	50.0	10.8	6.9
	82.3			
4. 週1回・それ以上	47.0	39.1	7.8	6.1
	86.1			

表3-10 悩みを聞いてくれる人がいればいいと思うか × 保健室の利用頻度 (カウンセラー)

(%)

	とてもそう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
1. 行かない	11.0	26.6	40.0	22.4
2. 月1回くらい	13.6	28.5	40.2	17.7
3. 月2～3回	15.0	28.2	37.4	19.4
4. 週1回・それ以上	27.2	21.9	32.5	18.4

の「悩み」の意識を尋ねた。「悩みは深刻に考えない方がいい」と「とてもそう思う」と答えた生徒は22.8%、「わりと」を合わせ7割の生徒が悩みを深刻に考えないようにしている様子うかがえる。さらに、「人に相談

すると秘密がもれるのではないか」「悩みがあることを人に知られたくない」と悩みを自分の心の内に秘めてしまう割合も5～6割いる。

表3-11 悩みについての意識

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
1. 悩みは深刻に考えない方がいい	22.8	46.9	24.5	5.8
	69.7			
2. 人に相談すると秘密がもれるのではないか	21.3	40.2	29.3	9.2
	61.5			
3. 悩みがあることを人に知られたくない	16.8	35.9	35.7	11.6
	52.7			
4. 人に相談しても、悩みは解決しない	11.3	23.6	51.5	13.6
	34.9			
5. 悩みがあるのはかっこ悪い	3.9	6.9	45.8	43.4
	10.8			

性別でみると（図3-2）、女子の方がやや悩みを深刻にとらえているようで、人に相談すると秘密がもれるのではないかと思いつつも、誰かに相談したいのだろうか、悩みがあることを人に知られたくないと思う割合

が低い。一方、男子は「人に相談しても、悩みは解決しない」「悩みがあるのはかっこ悪い」とし、男女とも悩みに対する複雑な中学生の心の内をのぞかせている。

図3-2 悩みについての意識 × 性

		(%)			
		とても そう思う	わりと そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
1. 悩みは深刻に考え ない方がいい	男子	28.6	43.9	21.1	6.4
	女子	16.7	50.1	28.0	5.2
2. 人に相談すると秘密が もれるのではないか	男子	23.0	36.9	28.6	11.5
	女子	19.4	43.8	30.0	6.8
3. 悩みがあることを 人に知られたくない	男子	19.6	38.2	29.7	12.5
	女子	13.7	33.5	42.1	10.7
4. 人に相談しても、 悩みは解決しない	男子	13.5	26.7	47.6	12.2
	女子	9.0	20.4	55.4	15.2
5. 悩みがあるのはか っこ悪い	男子	5.8	9.8	44.3	40.1
	女子	2.0	3.8	47.4	46.8

こうした複雑な意識は、中学生の発達の中で形成されたものであろうか。そこで、表3-12では、悩みへの意識をきょうだい関係でみてみた。一人っ子は悩みに対してあまり深刻にとらえず、人に相談しても解決しないと

少々楽天的に考えている。2人きょうだいの上の子は悩みは人に知られたくないし、相談すると秘密がもれるのではないかと悩みを心の内に秘めてしまうようである。

表3-12 悩みについての意識 × きょうだいの数

(%)

	一人っ子	2人きょうだい		3人きょうだい		
		上	下	上	中	下
1. 悩みは深刻に考えない方がいい	80.7	70.3	71.4	68.8	65.3	69.6
2. 人に相談すると秘密がもれるのではないか	62.8	74.2	62.1	55.4	60.4	66.6
3. 悩みがあることを人に知られたくない	48.6	58.1	52.0	46.4	46.8	55.0
4. 人に相談しても、悩みは解決しない	44.9	34.9	35.0	31.5	36.1	38.2
5. 悩みがあるのはかっこ悪い	11.2	13.9	9.5	12.1	8.7	9.0

「とても」+「わりと」そう思う割合
 ○は最大値 ~~~は最小値

さらに、家族との関係を「夕食の風景」から中学生の悩みの意識について尋ねたのが表3-13である。「1人で」食事をしている生徒に悩みを人に相談して解決しようという態度が低く、悩みを人に相談すると秘密がもれるかもしれないし、悩みを人に知られたくないと考えている割合が高い。逆に、「家族全員がそろろう」か、「父親だけ別」に食事している生徒は、悩みは相談すれば解決するし、悩みを人に知られるのがいやでもなく、人に相談すると秘密がもれると考える割合も低い。食事を一緒にすることは、家族のふれあいを

通して人への信頼や話すことで悩みが解決することを体験していることが想像でき、悩みへの対処や解決の仕方など家庭や成長の過程の影響の大きさがうかがわれる。

さらに、保健室の利用状況との関係を見ると、表3-14によれば、保健室によく行く者は、「悩みを深刻に考え、悩みがあるのはかっこ悪く、人に相談しても悩みは解決しない」と思いながらも、「人に相談すると秘密がもれる」とは考えていない。保健室の先生を信頼し、深刻な悩みの相談相手ではなくとも、どんなささいな話でも聞いてくれそうな

表3-13 悩みについての意識 × 夕食を誰と食べるか

(%)

	家族全員が そろろう	父親だけ別	母親だけ別	1人で 食べる
1. 悩みは深刻に考えない方がいい	25.3	19.2	22.7	27.4
2. 人に相談すると秘密がもれるのではないか	20.3	18.3	22.7	30.8
3. 悩みがあることを人に知られたくない	16.3	15.0	9.1	26.0
4. 人に相談しても、悩みは解決しない	11.0	8.0	13.6	22.4
5. 悩みがあるのはかっこ悪い	4.6	3.1	0.0	7.5

「とても」そう思う割合
○は最大値

先生がいて、声をかけられるだけでホッとする、そんな思いで保健室に行っているのだろうか。表は省略したが、学校が楽しく、「今の自分が好き」と自己評価する生徒に悩みを深刻に考えず、悩みを人に相談することで解決できると考えている割合が高い。

データからみる限り、中学生の悩みは学業成績、進路、親子・友だちなどとの対人関係まで様々であった。中学生の成長発達において「悩みを持つこと」は決して悪いことではない。「悩む」ことが生徒たちに人間的に豊かな成長をもたらすことも多く、「悩み」の

意義は深い。むしろ、悩みを持った生徒をどのように受け止め、どのように支えてやれるかが重要な問題である。データからみると、悩みの相談相手は「友だち、家族」、そして「人には相談しない」が多く、「担任」は勉強や進路の相談相手になれても、生徒たちの心を理解し支えるまでには至っていない。一方、生徒たちはカウンセラーなど相談相手を求めている様子もみられる。現状では、この相談機能を保健室が担っているのだろうか。

表3-14 悩みについての意識 × 保健室の利用頻度

(%)

	行かない	月1回 くらい	月2～3回	週1回・ それ以上
1. 悩みは深刻に考えない方がいい	70.2	70.6	66.4	65.8
2. 人に相談すると秘密がもれるのではないか	60.4	64.1	64.6	54.4
3. 悩みがあることを人に知られたくない	53.8	51.7	51.2	51.8
4. 人に相談しても、悩みは解決しない	35.7	33.2	32.8	39.5
5. 悩みがあるのはかっこ悪い	10.5	9.6	8.8	23.0

「とても」+「わりと」そう思う割合
○は最大値